

# 県立図書館だより

平成22年6月

青森県立図書館報 第7号



## じゃあ、読もう。

2010年は「国民読書年」です。

青森県立図書館では、この「国民読書年」を記念し、**読書や図書館に関する「標語コンクール」**や**図書館を使った「調べ学習コンクール」**を実施します。

### ● 読書や図書館に関する「標語コンクール」

県内の小・中学校、高等学校及び特別支援学校の児童・生徒から読書や図書館をテーマに表現した標語を募集し、最優秀賞1名、優秀賞4名の計5名を表彰します。

### ● 図書館を使った「調べ学習コンクール」

県内の小・中学校、高等学校及び特別支援学校の児童・生徒から図書館を使った調べ学習の成果を募集し、小学生・中学生・高校生の各部門から最優秀賞を1名、優秀賞を2名選び表彰します。

いずれも、締切は9月で、11月21日(日)に開催される「**青森県子どもの読書推進大会**」で表彰式を行います。

「**青森県子どもの読書推進大会**」については、平成22年10月の第8号で内容等をお知らせいたします。

上記以外にも、国民読書年記念事業として、子どもの読書活動を推進するための「こどもブックランド「ほんの森」」の開催や、創業・起業等を支援するための県内大学等との連携・協力を進めていきます。

## 目 次

国民読書年記念事業	1
森林コーナーリニューアル	2～3
こんなレファレンスがありました	4～5
子どもの本の紹介	6
郷土資料の紹介	7
近代文学館資料の紹介	8
カウンターから一言	9～10



# 県立図書館「森林コーナー」の リニューアルについて



県立図書館では、より魅力的な図書館を目指すために「森林コーナー」をリニューアルして、いくつかのコーナーを新設しました。

## 1 新・森林コーナー

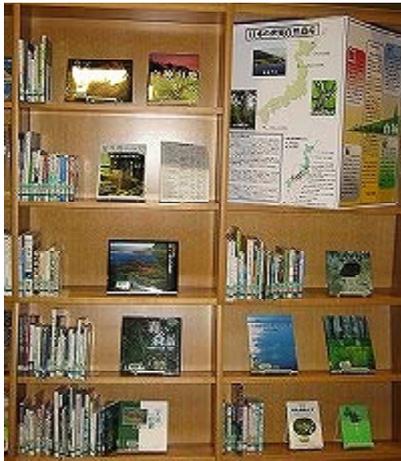
これまで配架していた本を厳選し、また、新たに森林に関する本を購入して、より魅力のあるコーナーとしました。

配架についても、より見やすく、分かりやすいよう工夫してあります。



## 2 森林に関連するコーナーとして、次のコーナーを新設しました。

### (1) 日本の世界自然遺産コーナー



本県と秋田県にまたがる白神山地は、世界自然遺産に登録されていることから、白神山地を中心に「日本の世界自然遺産」を紹介するコーナーを新設しました。

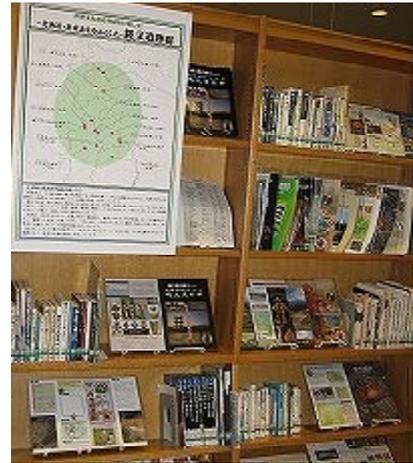
### (2) 青森の自然コーナー



本県は、白神山地以外にも、十和田湖や八甲田など豊かな自然に恵まれていることから、「青森の自然」を紹介するコーナーを新設しました。

(3) 縄文遺跡コーナー

三内丸山遺跡をはじめとする「北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群」は、世界遺産登録を目指しており、これらの遺跡は、自然との共生を現代の私たちに教示していることから、「縄文遺跡」を紹介するコーナーを新設しました。



**3 今年の12月には、県民の念願であった東北新幹線の全線開業が実現することから、本県の魅力を発信するコーナーを新設しました。**

(1) 太宰治コーナー

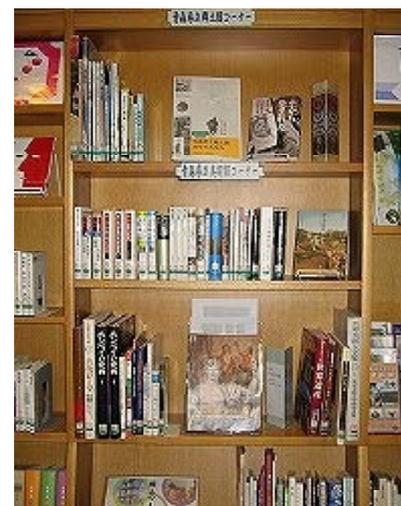
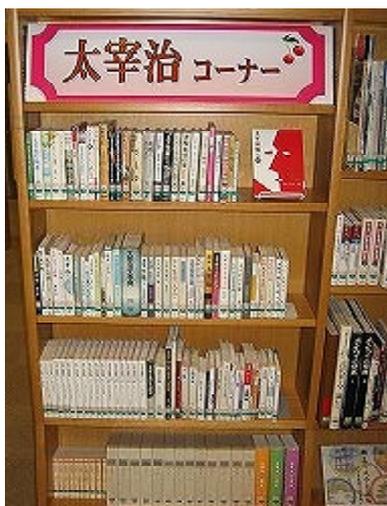
日本を代表する作家の一人であり、世界中に多くの愛読者を持つ「太宰治」の作品を紹介するコーナーを新設しました。

(2) 市町村PRコーナー

県内市町村の魅力を発信するため、パンフレット等を常設し、希望者に提供する「市町村PRコーナー」を新設しました。

(3) 県立郷土館・県立美術館コーナー

県立郷土館や県立美術館において開催される企画展等を紹介する「県立郷土館・県立美術館コーナー」を新設しました。



今後とも、より利用しやすい、より魅力的な図書館を目指して、サービスの充実や改善に努めて参ります。

# こ んな レファレンスがありました



(第7回)

参考・郷土室では、「探している本が、どこの図書館にあるのか知りたい。」「こんなテーマの本はありますか。」「こういう事柄や人物を調べたいが、どんな本がありますか。」などというレファレンス（質問）に、図書館資料等を使って、お答えしています。

そのたくさんさんのレファレンスの中から、毎回、事例を紹介していきます。

**【質問】** 南部地方から見える山で、“白馬の「雪形」が出現すると冷害になる”という言い伝えがあると聞いた。

どこの山のことで、実際にそのような冷害が起きているのか。雪形の写真や絵、冷害の事実が確認できる資料があったら知りたい。

(テレビ局からのご依頼でした。)

## 【回答】

「雪形」とはいったいどのようなものなのでしょうか。

田打ち桜と呼ばれる「こぶし」の花が咲き始めると、春もようやく本格的な暖かさになってきます。標高の高い山、青森県では岩木山や八甲田山に降り積もった雪も融けはじめ、山腹に残った雪と黒っぽい山肌がさまざまな形を見せます。

人々は古くから、その模様には動物や農機具などの形を重ね、農作業をはじめの目安にしたり、豊凶を占ったりしていました。この形を「雪形」といいます。

「雪形」の記述や絵は、菅江真澄の『栖家能（すみかの）山』などに200年以上も前から残されています。

水戸藩士の医師木村謙次は、七戸に逗留したときの話として、村人たちが駒ヶ岳（八甲田高田大岳）に現れる「駒の形」によって農作業の時期を伺っていた、と『北行日録』の中で記述しています。

冷害に関する記述では、文豪大町桂月が八甲田の仙人鹿内辰五郎の案内で八甲田山に登山した折、鹿内から聞いた話として「花の八甲田」の中で、大岳に残る残雪、雪田を見ながら、

「雪解けの時、七戸方面より馬の形ちに見ゆることあり。この二雪田はその残骸なり。三年つゞきて馬の形ち見ゆれば、必ず凶作なり」と書いています。



岩木山の雪形 菅江真澄

実際にはどうなのでしょう。

この「駒形」について『山の民俗』（岩科小一郎著）では、その山を「八甲田高田大岳」として、図とともに紹介しています。解説には、残雪が馬の形になるのを“駒の雪”とって、田の神様が下りてきて田植えの季節になるという話に続いて、

「～この駒形雪は通例六月初旬に出て八月下旬に消え失せるが、これが消え残って二百十日（九月一日）まで消えぬ年は凶作になると伝え、明治三十五年、大正二年、昭和八年、九年は二百十日に全部消えず九月下旬まであって、東北大凶作の徴を示した。」と記しています。

『青森県気象災害誌 1869年～1997年』によると、何れの年も天候不順で明治35年、昭和9年の稲作は県全体で平年の約50%、大正2年は約20%と大凶作になっています。

雪の降り方、融け方はその年の季候に左右されるものです。

「雪形」の見え方や消える時期などで農作業の目安にし、豊・凶作を占うというのは理に適った先人の素晴らしい知恵と言えるのではないのでしょうか。

#### 【参考資料】

『日本国語大辞典 第2版 13』（小学館 平成14年刊）

『山の紋章・雪形』（田淵行男著 学研 昭和56年刊）

「八甲田の白馬が教える」室谷洋司著

（『隔月刊あおもり草子 No.137』企画集団ぷりずむ 平成14年刊）

「【特集】雪の系譜 雪形と伝説」一、二 室谷洋司著

（『ゆきのまち通信 Vol.63、64』企画集団ぷりずむ 平成11年刊）

『酒仙・鉄脚の旅人 大町桂月』（棟方健治ほか編 蔦温泉 平成7年刊）

『北行日録』（木村謙次著 山崎栄作編 昭和58年刊）

『桂月全集 別巻』（大町桂月著 日本図書センター 昭和55年刊）

『山の民俗 民俗民芸双書34』（岩科小一郎著 岩崎美術社 昭和43年刊）

『青森県気象災害誌 1869年～1997年』（青森地方気象台編 平成10年刊）

●レファレンスは、電話・手紙・FAXのほか、電子メールでも受け付けています。

レファレンス申込み及び問い合わせ先

青森県立図書館 参考・郷土室

電話 017-729-4311

FAX 017-762-1757

電子メール sanko@plib.net.pref.aomori.jp

## 子どもの本の紹介(第7回)

イラストレーター・絵本作家として活躍した、青森県出身の沢田としきさんが、今年4月27日にお亡くなりになりました。

ご冥福をお祈り申し上げるとともに、追悼の意を込めて、作品を紹介します。

### 《『アフリカの音』沢田としき/作・絵 講談社 1996 (E+ワダ\*ト)》

1996年に第2回日本絵本賞を受賞した作品です。

この作品を読んでいると、ヤギの皮で作られるジンベ（ジャンベ）とよばれる太鼓の音が、遠くから聞こえてくるようです。太鼓の音は命の鼓動となり、かわいた風によってアフリカの人々に伝えられていきます。

音とともに生きる西アフリカの人々の生活を描いた作品です。

『アフリカの音』読み聞かせの様子



沢田さんは『エンザロ村のかまど』（さくまゆみこ/文 沢田としき/絵 福音館書店 2009 (333J+クマ\*ユ)）という作品をきっかけに、子どもの本を通して、アフリカと日本のあいだに架け橋をつくらうとするプロジェクト「アフリカ子どもの本プロジェクト」発足メンバーの一人として活躍しました。

### 《『ほろづき』沢田としき/作 岩崎書店 2001 (E+ワダ\*ト)》

主人公ユキと大きいおばあちゃん（おばあちゃんのおかあさん）のお話です。

副タイトルに「月になった大きいおばあちゃん」とあるように、「まんだこいへ」と言っていた大きいおばあちゃんは、白いけむりとなって空の上へのぼり、月となって夜の空をてらします。

この作品には、どこかで見たことのあるような風景がたくさん描かれています。沢田さんは青森市に暮らし、夏休みになると祖父母のいる東津軽郡今別町に滞在していたそうです。

「裳月（ほろづき）」は、今別町の地名で、裳月海岸は津軽国定公園内の景勝地として知られています。

#### 【主な受賞作品】

#### 『てではなそう きらきら』第8回日本絵本賞読者賞受賞

さとうけいこ/さく さわだとしき/え 米内山明宏/手話監修  
小学館 2002 (E+ワダ\*ト)

#### 『ピリカ、おかあさんへの旅』児童福祉文化賞受賞（平成19年）

越智典子/文 沢田としき/絵 福音館書店 2006 (E+ワダ\*ト)



## 郷土資料 の紹介 (第7回)

私たちが暮らす青森県は、豊かな自然環境に恵まれた県として、全国的に知られています。

世界自然遺産の白神山地をはじめ、新田次郎の小説や映画の舞台にもなった八甲田山、多くの文人達はその美しさを讃えた十和田湖・奥入瀬溪流、ラムサール条約登録湿地の仏沼、司馬遼太郎が「どこかの天体から人がきて地球の美しさを教えてやらねばならないはめになったとき、一番に

この種差海岸に案内してやろうとおもった」(『街道をゆく 3』朝日新聞社、1973) という種差海岸など、その魅力は枚挙にいとまがありません。

ところが、今からちょうど10年前の2000年、青森と岩手の県境における産業廃棄物の大規模な不法投棄によって関係者が逮捕・起訴され、日本中に大きな衝撃が走りました。その現場では、10年後の今もなお、廃棄物の撤去や周辺環境の調査など、自然環境の再生に向けた取り組みが続けられています。

6月は環境月間として、県内各地で様々な催しが行われています。この機会に、青森県の自然と環境問題について、図書館の本を片手に考えてみてはいかがでしょうか。



### 『青森県の希少な野生生物 改訂版』(青森県レッドデータブック改訂検討会編 青森県 2010)

世界的に見ても希少価値の高い種や、特異な生態を有する種が多数見られる青森県。カラー写真を交えてそれらの生物を紹介し、自然環境保護の重要性を説く。

### 『崩壊する産廃政策 ルポ青森・岩手産廃不法投棄事件』(高杉晋吾著 日本評論社 2003)

自然豊かな地域が、大都市から出る産業廃棄物を抱え込むに至った社会構造とは？排出者責任を明確にした循環型社会＝協働決定社会の確立を訴える。

### 『ダスト・マイ・ブルーム』(菅原一剛著 ソフトバンククリエイティブ 2009)

リサイクルは、“本当に大切なもの”を見つけるための再生行為—弘前市にあるリサイクル工場で撮影された、「世界で一番きれいな」ゴミの写真集。

青森県立図書館では、青森県に関する資料や、青森県内で刊行された資料、青森県在住者・出身者の著作物などを郷土資料として積極的に収集し、永く保存するとともに、県内外の皆様幅広くご利用いただいております。

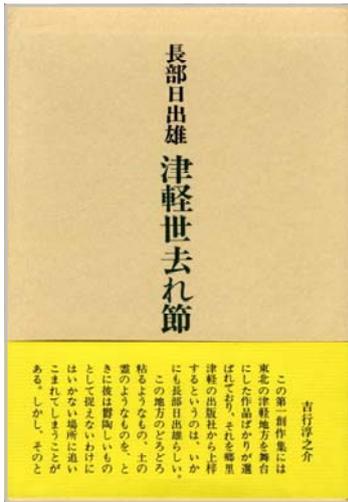
今後ともこのコーナーでは、当館所蔵の郷土資料の中から、普段はあまり人目に触れる機会の少ない貴重な資料などをご紹介していきます。

## 近代文学館資料の紹介(第7回)

### 長部日出雄『津軽世去れ節』・若山牧水自筆詠歌

青森県近代文学館では、7月10日から9月5日まで、特別展「西北五文学散歩」を開催します。今回は、展示予定の資料の中から2点を紹介します。

#### 長部日出雄『津軽世去れ節』初版本 津軽書房 昭和47年11月



津軽を舞台とした小説6編を収めた、長部日出雄（1934-、弘前市出身）の第1創作集です。この本に収められた「津軽世去れ節」と「津軽じょんから節」によって、長部日出雄は第69回（昭和48年上半期）直木賞を受賞しました。

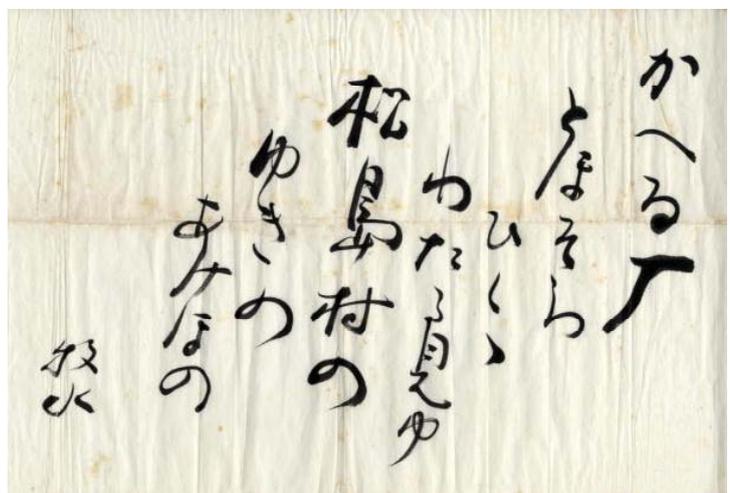
表題作「津軽世去れ節」は、嘉瀬村（現五所川原市）出身の伝説の歌い手、黒川桃太郎の生涯を描いた作品です。ちなみに、第2版以降は「直木賞受賞」の文字が入った緑色の帯が付されたため、左の写真のように、外箱に黄色い帯が付いているのは初版本だけです。

#### 若山牧水自筆詠歌

##### 「かへる雁 とほそら ひくく わたる見ゆ 松島村の ゆきの あけぼの」揮毫年月不詳

旅を愛した歌人として知られる若山牧水（1885-1928、宮崎県出身）は、大正5年3月に青森県を訪れています。青森で10日間を過ごした後、30日から五所川原に滞在、松島村（現五所川原市）にも足を伸ばしました。牧水はその後、大鰐、板留を回って4月21日に退県しましたが、翌5月には青森の短歌雑誌「はまなす」に「残雪行」と題して短歌17首を寄せました。「帰る雁遠そらひくく渡る見ゆ松島村の雪のあけぼの」は、その中に見られる1首です。当館では、この歌が記された牧水自筆の書を所蔵しています。

なお、牧水は大正5年6月に歌集『朝の歌』を出版していますが、この本には「帰る雁とほ空ひくく渡る見ゆ松島村は家まばらかに」という歌が見られます。前述の短歌の後半部に改変を施して成ったものと考えられます。



# カウンターから一言 (第7回)



書架の表示板を大きくし、柱を色分けしましたのでお知らせします。



左の写真は、書架を左側から撮影し、右の写真は、右側から撮影したものです。みなさんが見ている前面の書架と、その裏側にある背面の書架の資料内容を大きく表示しました。

下の写真は、カウンター、入口方向から一般閲覧室内を撮影したものです。一般閲覧室内の7本の柱を色分けし、本を探しやすくしました。柱に掲示している「青森県立図書館閲覧室配架案内」にも柱部分を色分けした表示で案内しています。

10ページの配架案内を御参照ください。



## 編集後記

ホームページを活用しての「県立図書館だより」第7号は、「国民読書年」記念事業として実施します、児童・生徒による「標語コンクール」や「調べ学習コンクール」についてご紹介しました。この取組が、子どもたちにとって「読書」や「図書館」がもっと身近に感じるきっかけになることを願っています。

(広報委員会)

